



Hubble Glimpses a Glittering Gathering of Stars©NASA, ESA and R. Cohen

1 January

2025

日	月	火	水	木	金	土
29	30	31	1元日	2	3	4 しぶんぎ座流星群が極大
5 小寒	6	7 ☾ 上弦	8	9	10 金星が東方最大離角	11
12 火星が最接近	13成人の日	14 ☉ 満月	15	16	17 火星が衝 冬の土用の入り	18
19	20 大寒	21	22 ☾ 下弦	23	24	25
26	27	28	29 しし座Rが極大光度 ● 新月	30	31	1

- 《1月1日》 初日の出情報：岡山県の初日の出の時刻は7時11分（方位角：117.7度）
- 《1月4日》 0時にしぶんぎ座流星群が極大(1時間平均50個)。ペルセウス座流星群、ふたご座流星群と並ぶ三大流星群の一つ。
- 《1月10日》 14時2分、金星が東方最大離角(光度-4.5等、視直径24.4"、離角47.2°)で夕方に「宵の明星」として輝く。
- 《1月12日》 22時37分、火星が最接近(-1.4等)する。
- 《1月17日》 1時53分、火星がふたご座で衝(-1.5等、視直径14.6")をむかえる。



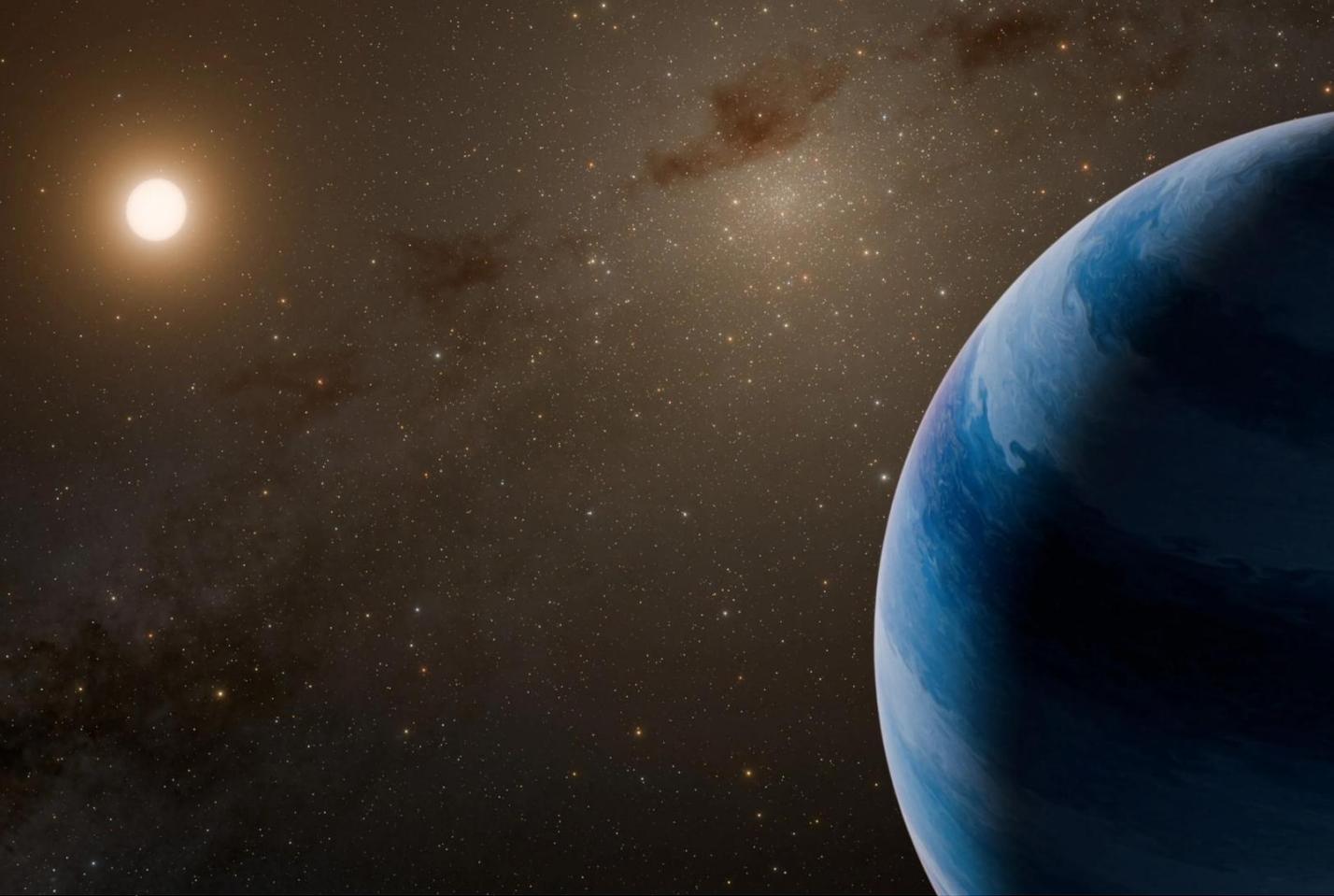
Stars Gather in 'Downtown' Milky Way©NASA

2 February

2025

日	月	火	水	木	金	土
26	27	28	29	30	31	1 真昼の土星食
2 節分	3 立春	4	5 ☾ 上弦	6	7	8
9	10 火星食	11 建国記念の日	12 ☉ 満月	13	14	15 金星が最大光度
16	17	18 雨水	19	20	21 天皇誕生日 さそり座πの星食 ☾ 下弦	22
23 天皇誕生日	24 振替休日	25	26	27	28 ☉ 新月	1

- 《2月1日》 12時ごろ、北日本と西日本方面で真昼の土星食が起こる。青空の中に白っぽく浮かんでいる細い月を双眼鏡で見つけるとよい。
- 《2月10日》 火星食が起こる。北西方向の高度が低い位置なので観察条件はきびしい。
- 《2月15日》 8時31分、金星が最大光度(-4.9等)となる。4月27日にも最大光度となる。
- 《2月21日》 4時3分、さそり座π(2.9等)の星食(出現:東京)が起こる。



A low-mass star near the center of our Milky Way galaxy ©NASA

3 March

2025

日	月	火	水	木	金	土
26	27	28	29	30	31	1
2	3	4	5 啓蟄 おうし座ηの 星食	6	7  上弦	8 水星が東方最大離角
9	10	11	12	13	14 皆既月食 15 くじら座ο[ミラ]が極大光度  満月	15 くじら座ο[ミラ]が極大光度
16	17 春の彼岸の入り	18	19	20 春分の日	21 さそり座τの 星食	22  下弦
23	24 土星の環の消失	25	26	27	28	29 30 ● 新月
30	31	1	2	3	4	5

《3月5日》 23時9分、おうし座η(2.9等)の星食。プレアデス星団の食でもあり、星団のほしぼしが月に隠されていく様子は、双眼鏡を使うことでより鮮明に見られる。

《3月8日》 15時9分、水星が東方最大離角(光度-0.3等、視直径7.3"、離角18.2°)で夕空に。

《3月14日》 欠けた月が昇ってくる月出帯食となる。

《3月15日》 くじら座ο[ミラ](2.0-10.1等、周期328日)が極大光度をむかえている。

《3月21日》 5時25分、さそり座τ(2.8等)の星食(出現:札幌)が起こる。



A bow shock around a very young star called LL Ori ©NASA

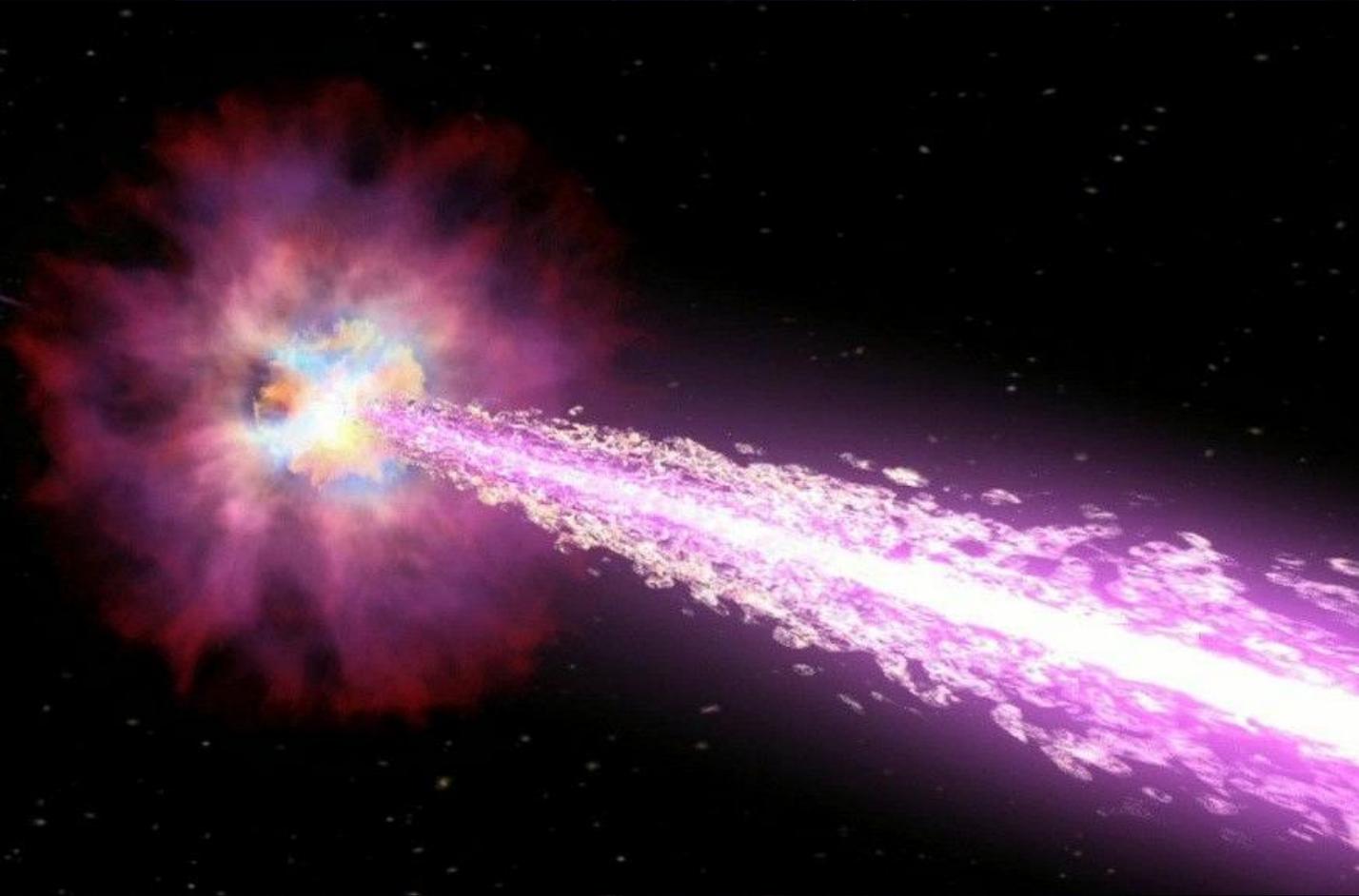
4 April

2025

日	月	火	水	木	金	土
30	31	1	2	3	4 清明	5 ☾上弦
6	7	8	9	10	11	12
13 ☉満月	14	15	16	17 春の土用の入り	18	19
20 穀雨	21 ☾下弦	22 水星が西方最大離角	23	24	25	26
27 金星が最大光度	28 ●新月	29昭和の日	30	1	2	3

《4月22日》 3時49分、水星が西方最大離角(光度+0.4等、視直径7.9"、離角27.4°)となって明けの空へ。そのころ水星・金星・土星が明けの空で会合する。25日から26日にかけては細い月も加わり、暁の空での天体ショーとなる。

《4月27日》 19時16分、金星が最大光度(-4.8等)。金星は地球よりも内側の公転軌道を回る内惑星である。地球からは月の満ち欠けと同じように太陽に照らされた部分の形が変わって見える。さらに、見かけの大きさ(視直径)も変化するので金星の太陽光が当たっている部分の面積は大きく変化して見える。外合のころは満月のような丸い形であっても視直径は小さく、内合のころは三日月のように細くても視直径は外合の約4倍にもなる。最大光度は内合の前後およそ36日にむかえる。



GRB 221009A@NASA

5 May

2025

日	月	火	水	木	金	土
27	28	29	30	1 八十八夜	2	3 憲法記念日
4 みどりの日 火星がプレセペ星団に接近中 ☾ 上弦	5 こどもの日 立夏 小惑星ベスタが衝	6 振替休日	7	8	9	10
11	12	13 ☉ 満月	14 さそり座πの星食	15	16	17
18 小惑星ジュノーが衝	19	20 ☾ 下弦	21 小満	22	23	24
25	26	27 ● 新月	28	29	30	31

《5月初旬》 火星がプレセペ星団(メシエ44)のそばを通過中。土星の環は3月24日に地球から見て真横になり、その日以降、5月7日までは環の太陽光が当たっていない側から見る「環の消失」期をむかえている。土星(+1.2等)の北側およそ6°には金星(-4.7等)が明るく見える。

《5月14日》 0時25分、さそり座π(2.9等)の星食(出現:東京)が起こる。

《5月24日》 明けの東の空で金星・土星・細い月の会合が起こる。少し暗いが海王星(+7.8等)も土星の近くにあり、撮影すれば4天体を同時にとらえることが可能だろう。



LEDA 1313424@NASA

6 June

2025

日	月	火	水	木	金	土
1 金星が西方最大離角	2	3 ☾ 上弦	4	5 芒種	6	7
8	9	10	11 入梅 ☉ 満月	12	13	14
15	16	17	18	19 ☾ 下弦	20	21 夏至
22	23	24	25 ● 新月	26	27	28
29	30 白昼の火星食	1	2	3	4	5

- 《6月1日》 12時29分、金星が西方最大離角(光度-4.4等、視直径23.9"、離角45.9°)で明けの空に明るい。8月から9月にかけて「明けの明星」として高い位置で燦然と輝く。
- 《6月21日》 11時42分が夏至。夕方の薄明が遅く、明け方の薄明が早いこの時期、人工衛星が飛ぶ姿をよく見かける。最近ISSのほかに中国のCSSやスターリンクなど、星空写真にもたくさんの光跡が写り込む。
- 《6月30日》 白昼の火星食。各地で東の空に昇ったばかりの月(月齢4.6)から火星が出現する。超低空での現象なので観察はむずかしい。



The Orion Nebula©NASA

7 July

2025

日	月	火	水	木	金	土
29	30	1 半夏生	2	3 ☾ 上弦	4 水星が東方最大離角	5
6	7 小暑	8	9	10	11 ☉ 満月	12
13	14	15	16	17	18 ☾ 下弦	19 夏の土用の入り
20	21海の日	22 大暑	23	24	25 ● 新月	26 準惑星 冥王星が衝
27	28	29	30	31 小惑星パラスが衝	1	2

《7月4日》 13時39分、水星が東方最大離角(光度+0.5等、視直径8.0"、離角25.9°)となり夕空に。

《7月26日》 準惑星の冥王星がやぎ座で衝(+15.0等)をむかえている。

《7月31日》 3時41分、小惑星パラスがいるか座で衝(+9.4等)をむかえている。パラスはケレスを除く小惑星群で最大の大きさで、1802年にドイツ・ブレメンのオルバースによって発見された。ハッブル望遠鏡の観測からは正八面体に近い球形が確認されている。
16時、みずがめ座 σ 南流星群とやぎ座 α 流星群が極大をむかえ活動している。数は多くはないが、火球状の明るいものが出現するので、見ごたえのある流星群が見られる。



8 August

Natural Resources on Earth ©NASA

2025

日	月	火	水	木	金	土
27	28	29	30	31	1 ☾ 上弦	2
3	4	5	6	7 立秋	8	9 ☉ 満月
10	11山の日	12 金星が木星の南0° 52'	13 ペルセウス座流星群が極大	14	15	16 ☾ 下弦
17	18	19 水星が西方最大離角	20	21 明けの空で月・水星・金星・火星の会合	22	23 処暑 ● 新月
24	25	26	27	28	29 伝統的七夕	30
31 二百十日 ☾ 上弦						

- 《8月11日》 山の日。「山の頂で仰ぐ星空は、降るような輝きで、見え方がまるで違う」という。
- 《8月13日》 5時、ペルセウス座流星群が極大をむかえる。12日から観察を始めるのがよい。夜半以降は月の影響を受ける。
- 《8月16日》 23時55分、おうし座17番星(3.7等)の星食(出現:東京)と同時にプレヤデス星団の食となる。双眼鏡を使えば星団の恒星が次々と隠されていくが見える。
- 《8月19日》 18時48分、水星が西方最大離角(光度+0.0等、視直径7.5”、離角18.6°)で明けの空へ。
- 《8月29日》 伝統的七夕。最近では7月7日や、月遅れと称した8月7日に行われる所が多い。



Cliffs slope into the ocean in San Simeon, California©NASA

9 September

2025

日	月	火	水	木	金	土
31	1 はくちょう座 χが極大光度	2	3	4	5	6
7 白露	8 皆既月食 ○ 満月	9	10	11	12	13
14 ● 下弦	15 敬老の日	16	17	18	19	20 秋の彼岸の入り
21	22 土星が衝 ● 新月	23 秋分の日	24 海王星が衝	25	26	27
28	29	30 ● 上弦	1	2	3	4

- 《9月1日》 はくちょう座χ(3.3-14.2等、周期409日)極大光度。有名なミラ型の脈動変光星で、1686年にドイツのゴットフリート・キルヒによって変光が発見された。ミラ、アルゴルに次いで3番目に発見され、スペクトル分類は赤色巨星に見られる特殊なS型。
- 《9月8日》 皆既月食(部分食の始まり1時26分、皆既の始まり2時30分)。部分食の終わりまで全国で見られ、西に傾いて月没となる。
- 《9月22日》 15時31分、土星がうお座で衝(+0.6等、視直径19.4")をむかえる。
- 《9月24日》 12時5分、海王星がうお座で衝(+7.7等、視直径2.4")。



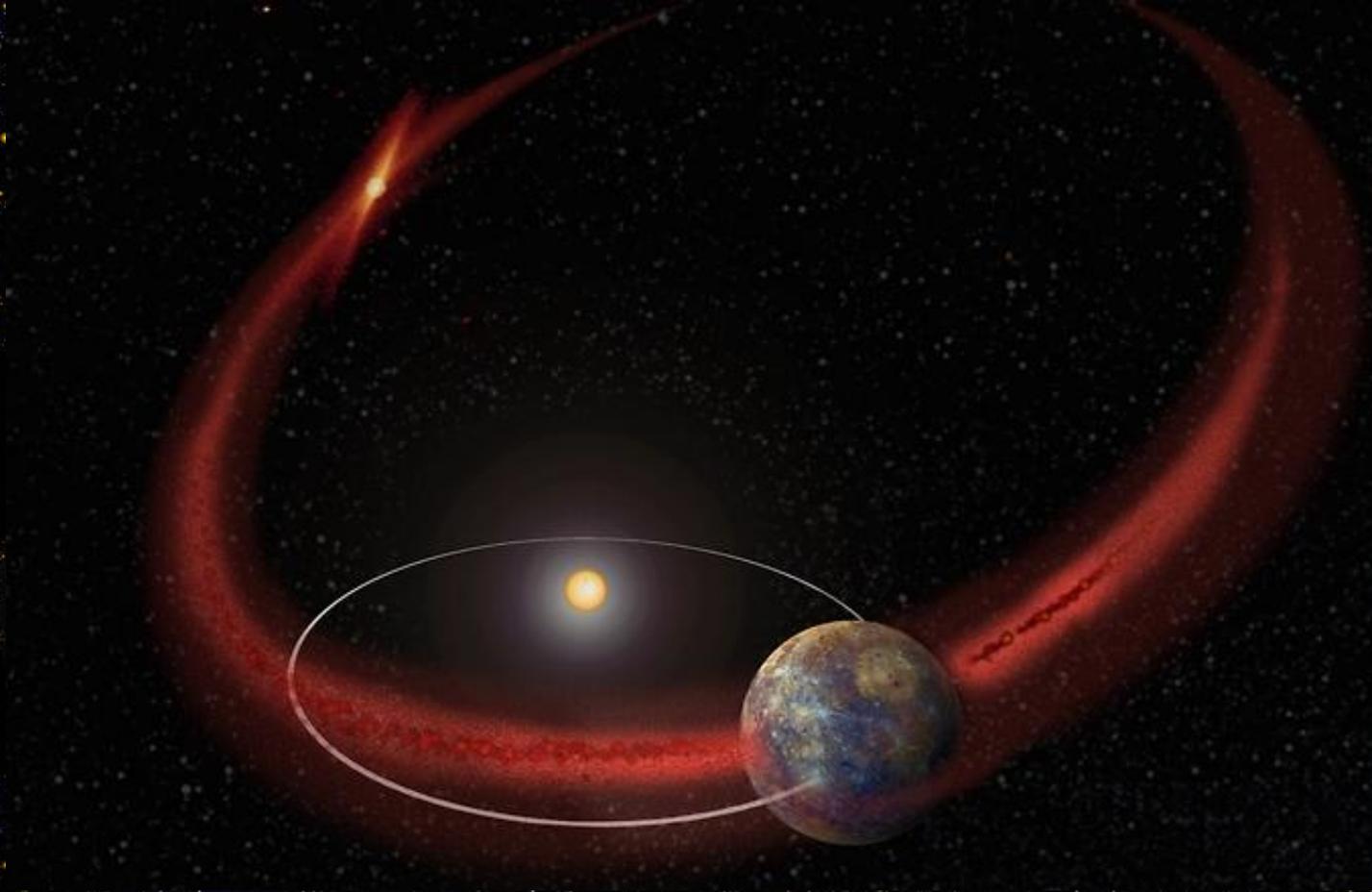
The star V830 Orionis shines seen as the NGC 1999 reflection nebula©NASA

10 October

2025

日	月	火	水	木	金	土
28	29	30	1	2	3	4 やぎ座σの星食
5	6 中秋の名月	7 ○ 満月	8 準惑星ケレスが衝 寒露	9	10	11
12 おうし座βが接食	13スポーツの日	14 ◐ 下弦	15	16	17	18
19	20 秋の土用の入り	21 ● 新月	22	23 霜降	24	25
26	27	28	29	30 水星が東方最大離角 ◑ 上弦	31	1

- 《10月4日》 1時38分、やぎ座σ(2.9等)の星食。福岡方面で潜入が見られる。
- 《10月6日》 中秋の名月。月のそばに土星が明るい。満月は翌7日12時48分となる。日本では毎月ある満月にとくに呼び名はないが、ネイティブ・アメリカンの満月の呼び名を使う機会が多くなった。日本でも毎月の満月が特別な感じになってきた。
- 《10月8日》 5時59分、準惑星ケレスがくじら座で衝(+7.6等)をむかえる。
- 《10月30日》 7時2分、水星が東方最大離角(光度-0.1等、視直径6.6"、離角23.9°)で夕空に。



JSC2014-E-080367©NASA

11 November

2025

日	月	火	水	木	金	土
26	27	28	29	30	31	1
2 後の月	3文化の日	4	5 ○ 満月	6	7 プレヤデス星団の食 立冬	8
9	10	11	12 ◐ 下弦	13 白昼のレグルス食	14	15
16	17	18 しし座流星群が極大	19	20 ● 新月	21 天王星が衝	22 小雪
23勤労感謝の日	24振替休日	25	26	27 やぎ座σの星食	28 ◑ 上弦	29
30						

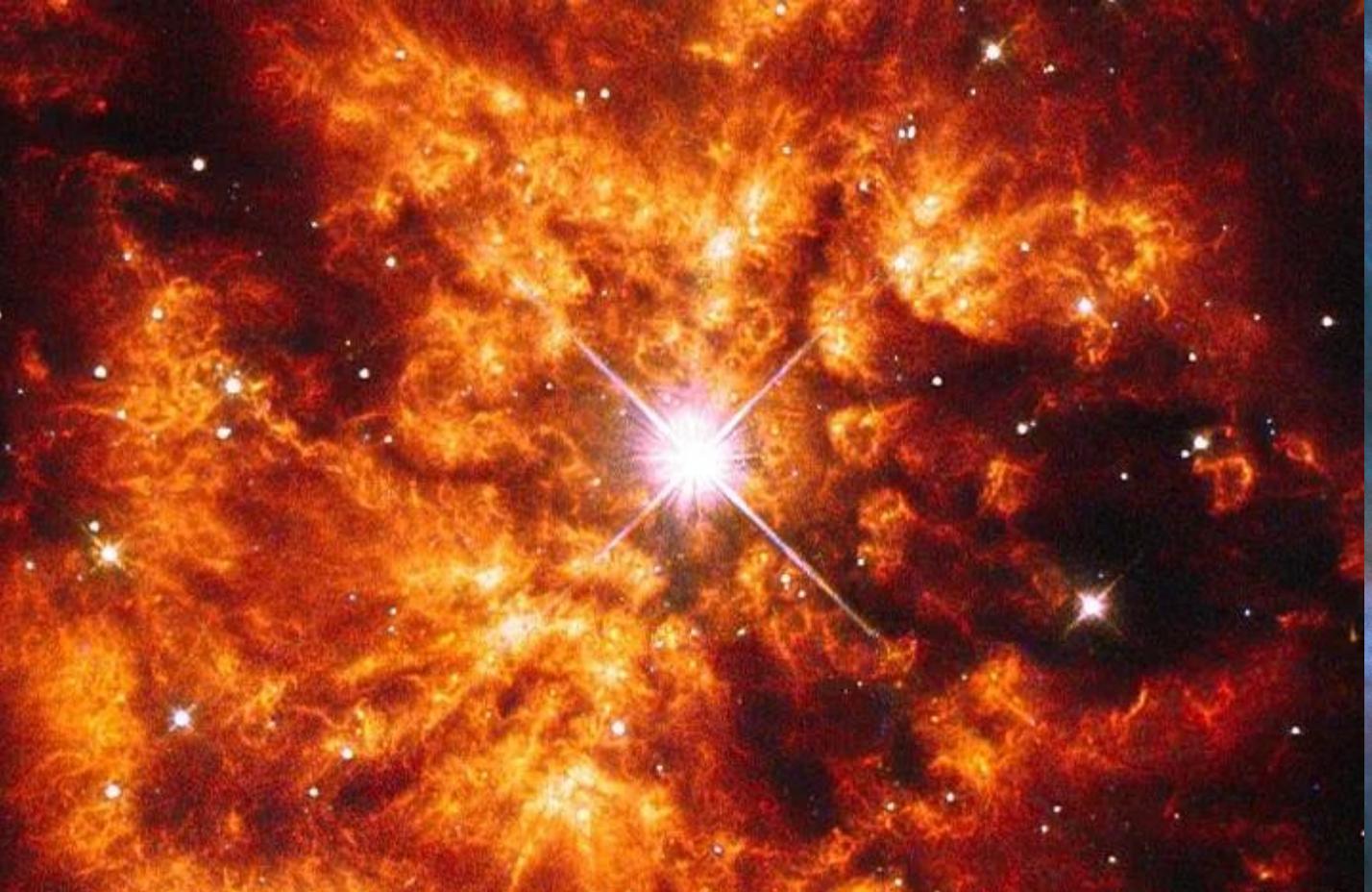
《11月2日》 後の月。十五夜(芋名月)と十三夜(栗名月)を合わせて「二夜の月」とよんで、両方を愛でる習慣が我が国に残る。片方だけでは縁起が悪いとされる。

《11月13日》 9時34分、白昼のレグルス食(潜入:札幌、出現10時17分)。

《11月21日》 22時28分、天王星がおうし座で衝(+5.6等、視直径3.8")をむかえる。

《11月24日》 土星環が傾き0.37°で極細。

《11月27日》 17時9分、やぎ座σ(2.9等)の星食(潜入:東京)が起こる。



A Hubble Cosmic Couple©NASA

12 December

2025

日	月	火	水	木	金	土
30	1	2	3	4	5 ○ 満月	6
7 大雪	8 水星が西方最大離角	9	10	11	12 ◐ 下弦	13
14 ふたご座流星群が極大	15	16	17	18	19	20 ● 新月
21	22 冬至	23	24	25	26	27
28 うお座σが接食 ◐ 上弦	29	30	31	1	2	3

- 《12月8日》 水星が西方最大離角(光度-0.4等、視直径6.6"、離角20.7°)で明けの空に。
- 《12月14日》 ふたご座流星群が極大となる。ふたご群の放射点(輻射点)は深夜にかけてより高くなるが、夜半後に月が昇ってくるので暗い流星は月明かりで見づらくなる。
- 《12月31日》 22時24分、おうし座19番星(4.3等)の星食(潜入:札幌)、おうし座18番星(5.7等)の星食(潜入:東京)、プレアデス星団の食が起こる。